

第二十三卷

研究論集

国文・家政学科篇

前 卷 目 次

第 二 十 二 卷

真宗における往生浄土の目的……………	岡 邦 俊……………	一	右から
芥川龍之介「西方の人」注解(四)……………	吉 野 孝次郎……………	一	
昭和49年度音楽学ワールド・ワーク調査研究報告 遠江小国神社に伝承される十二段舞楽について ―太平楽舞を中心として―……………	小 野 功 龍……………	二一	
トリスタン伝説とゴットフリート・ フォン・シュトライスブルフ……………	齋 藤 芙美子……………	四三	
平家物語と修羅能について(二)……………	三 谷 幸 子……………	五三	
江戸時代の帯の研究……………	森 山 和 美……………	六三	
△ウイング音楽テストVによる 音楽能力・学力の分析(その2)……………	酒 川 圭 諄……………	一	左から
立体構成における構造線とデザインとの関係……………	神 田 美年子……………	17	
Utilization of oils by a strain of <i>Candida tropicalis</i> ……………	小 原 国 彦……………	33	
主な成人病に関連があると思われる食事について……………	村 上 裕 子……………	43	
体育科成績の向上に関係する要因分析……………	長 野 孝 男……………	55	
学校令直後の女子教育論について ―大日本教育会雑誌に関連して―……………	永 田 千 恵 子……………	67	

国文学科行事記録

。文学遺跡巡り

十月十七日（金）、飛鳥巡りを行う。曇時々小雨、藤原京大極殿跡を見学、新造の鴨公小学校で昼食。午後、飛鳥資料館、石舞台古墳を見学し、午後五時前に帰阪。

。芸能鑑賞

十二月四日（木）午後、大槻能楽堂で、能楽「野宮」を鑑賞。解説を田中重太郎教授、講演を泉嘉夫師が行う。また、狂言「棒縛」が茂山千五郎師などによって演ぜられ、午後四時頃終了。

編集後記

本研究論集は、発刊以来前巻（第22巻）に到るまで、相愛女子大学、相愛女子短期大学の学部・学科を通じて、一冊にまとめて発行されて来た。今次編集委員会は、現下諸般の事情を考慮して慎重に検討協議の上、各教授会の諒承を得て、本巻（第23巻）より「音楽学部篇」、 「国文・家政学科篇」の二冊に分冊して刊行することに改めた。

学部・学科の専門領域以外の論文（一般教育・外国語・保健体育・教職課程関係）については、執筆者の関連に応じてそれぞれ何れかの篇に割ふった。併し、編集委員会の構成は両大学を通じて一体として運営し、また誌名は従来の形式にのっとり、「相愛女子大学^{相愛女子短期大学}研究論集」として統一し、巻数もそれを継承することとした。

なお、前委員会の方針をうけついで、両篇ともに彙報の類を一切除き純論文集の体裁をととのえた。

編集委員（五十音順）

酒井 諄（委員長）

鈴木 国夫

別所 成紀

長野 孝男

森本 茂

渡辺 正